

ごみくず星くず

中辻英恵

登場人物

萌

ひなた

萌 レモンティー、ピーチティー、ピーチティー、ミルクティー、野菜ジュース、レ

モンテイトー、ピーチティー、アップルティー、野菜ジュース、ピーチティー……

台詞に合わせて明転。

放課後の教室。舞台には机と椅子が数組。中央に二つ、あるいは四つの机を集めて大きな一つの机のようにしている（以下「中央の机」）。中央の机に二人の女子生徒（ひなた、萌）が座っている。周囲の机または椅子の上に、ひなたの学生かばん（かばんの下にゴミ袋を畳んで置いているが見えない）、萌の学生かばんと大きめのサブバッグが置かれている。机の上いっぱいには、紙コップ、ペットボトル、うちわ、お菓子の空袋、ストロー、紙パックなど様々なゴミが広げられている。

萌は今、紙パックを一つずつ、ひなたの側と自分の側とに分けているところ。

ひなた 見分けつくの。

萌 ひなたちゃんが取ってきてくれたのにはストローがない。

ひなた あ。

萌 もつたいない。

ひなた ……拾うときどっか行っちゃうんだよ。

萌 ストローは貴重。むしろ本体。

ひなた じゃあこれはいらないじゃん。

萌 でもそれはそれで先輩の手は触れてるから。

ひなた はいはい。

萌 あ、よかった、出てきた。

ひなた え？

萌 どっか行っちゃったと思って、ほらこれ。

ひなた んー？

萌 先輩の貼ってた絆創膏！

ひなた ……あー。

萌 これはお宝レベル高い。

ひなた 高いね。

萌 むふふ。ここにこう、ゴミ箱があるとして、ここに先輩がいて、先輩が捨てたあ
とこうやってサツと。

ひなた えっ、先輩いるときに拾ったの!?

萌 これは危険を冒す価値あるから。

ひなた すごい。

萌 上半身は立てたままにしとくのがポイント。

ひなた そういうもんかな。

萌 見ながら拾わない。ゴミ箱のどのへんに入ったか頭に叩き込んでおいて、横通る
とき正面向いたまま手をつっこむ!

ひなた ……先輩グミ好きなんだ。

萌 あ、そうそう。袋いっぱいある……見てこれ、この切れ端これにぴったり。

ひなた ほんとだ。

萌 ……問題はペットボトルで。

ひなた うん?

萌 三本はひなたちゃんが取ってきてくれたはずなんだけど、どれだったか。

ひなた どれでもいい、てか、

萌 けど、自分でゲットしたやつ欲しくない?

ひなた でも、まあ、

萌 じゃあ好きなの選んで。

ひなた え。

萌 全部先輩が飲んだのは間違いないし。

ひなた うん……じゃあ……。

ひなた、たくさんあるペットボトルの中から三本選んで自分の側に寄せる。他の物の仕
分けに熱中している萌を置いて立ち上がり、教室の外の様子をうかがう。

萌 先輩のしてたマスク、これ確かレアなのが……あったあった、ほら、ピンク!

……ひなたちゃん。

ひなた ……あ、何?

萌 大丈夫。かばん、誰のも残ってないし。

ひなた あー、うん……でも、教室でこんなの、落ち着かないよ。

萌 部屋よりいい。

ひなた ああ確かに、先輩本人に見られたら

萌 一発アウト。

ひなた ……でもさ、見られたとして、自分のだって分かるもんなのかな。

萌 え、分からない？

ひなた だってゴミだし。私だったら分かんないかも。

萌 そう？

ひなた まあ見られないのが一番だけど。

萌 誰も来ないって。

ひなた あ、けどさ、今もし誰かに見られたら、校内のゴミ拾いしましたって言えばよくない？

萌 自主的に？

ひなた 自主的に。

萌 ……嘘ではない。

ひなた 実際は先輩のゴミ限定だけどねー。しかも捨うどころかゴミ箱から発掘してるし。……ね、そうしょ。

萌 うん。

ひなた あー何か落ち着いた。

萌、ゴミの中のタッパーを手に取る。

萌 これは？

ひなた 何。

萌 先輩の、消しゴムのカス。

ひなた あっ、こうやって溜めてたの。

萌 これ分ける？

ひなた えー、でも、

萌 私が集めてる間、ひなたちゃん見張っててくれた。

ひなた あー、まあね。

萌 半分にする？ 何か入れ物、

ひなた いい、いい、萌にあげるよ。

萌 でも、ひなたちゃんの分、少ないし。

ひなた 別に、

萌 何か紙に包む、ルーズリーフ、

ひなた いいって！

萌 あ、じゃあ、固める？

ひなた は？

萌 練り消しみたいに。

ひなた いや、いい、てか、そうじゃなくてさ。……さっきから言おうと思ってたんだけ

ど。

萌 何。

ひなた その、これ、先輩のゴミコレクション。

萌 うん。

ひなた 捨てた方がよくない？

萌 え。

ひなた ロッカーに入りきらなくなったんでしょ。

萌 でも、だから、全部は入らないけど、ひなたちゃんがゲットした分ちゃんと分けたら……前から、そうしなきゃって思ってたし。

ひなた 私、いいんだけど。

萌 いい？

ひなた 知らないってこと。だって、……いや、とにかく、萌が心配で、私は。

萌 心配？

ひなた バレちゃうよ、学校に置いてたらそのうちに。

萌 けど、ロッカーは鍵かけられるし。

ひなた かけれるってだけでかけてる子ほとんどいないじゃん。

萌 そんなの人の勝手だ。

ひなた そうだけど。

萌 あ、もしかしてひなたちゃん、鍵用意してない？ 百均でも、よかったら私、

ひなた いや、そういう問題じゃなくて、

萌 そんなにひなたちゃんの分多くないし大丈夫だと

ひなた 違うんだって。私は別に怪しまれてないし。

萌 え？

ひなた あ。

萌 「私は」？

ひなた あー、いや、気にしないで、

萌 えっ待って、私、怪しまれてる？ ……誰に？ まさか

ひなた いや大丈夫だって。

萌 大丈夫じゃない！

ひなた ……その、萌ときどきやるじゃん、「先輩、それ私捨てときますよ！」ってやつ。

萌 それが？

ひなた 先輩がね。その、萌が、普段は自分から話しかけてくるようなタイプじゃないのに、こっちが何か捨てようとしたときに限って飛んでくるって

萌 えええ！ そんなこと、

ひなた 大丈夫、まだ大丈夫、まだ別に……ただ何なんだろうねってくらいの話で。私も、

適当にフオローしたし。

萌 ああ、もう。

ひなた ね、だから私、萌がちよっと危ないかなって、

萌 ひなたちゃんが、そうしよっちゅうゴミ箱漁るのはよくないって言うから、

ひなた 私のせい！？

萌 編み出した作戦だったのに……。

ひなた ……先輩ね、告白されて断ったら、何かしつこくされたこととかあったらしくて、

萌 は？

ひなた そういうの敏感なんだよ。

萌 私たちもそれと同じってこと？

ひなた いや……違うけどさ、

萌 何も迷惑かけてないのに。

ひなた まあ、うん、迷惑は、かけてないよね。

考えこむ萌。

ひなた まあでも、だからちよっと、学校のロッカーに置いとくのはまずいかなって。

萌 じゃあ、持って帰る。

ひなた え！？

萌 うん、それが一番

ひなた でもでも、家に置くのってさ、その、どうなの。

萌 自分の部屋なら……え、ひなたちゃんのお母さんって、勝手に部屋入ったりとかする？

ひなた いやそれはないけど、

萌 じゃあ、

ひなた けど！ そういう問題じゃないっていうか、何ていうか……。

萌 何。

ひなた ……もう、やめたほうがいいと思うんだよね。こんなこと。

萌 うん。

ひなた あ、分かる？

萌 もう、新しく手に入れるのは諦めて、今まで集めたのを大事に

ひなた あーそうじゃなくて……いや、うん、もう集めない方がいいのはそうなんだけど。

でも、その、もっと根本的にさ、

萌 根本的。

ひなた 何ていうか、人のゴミを持つとくっついていうこと自体がよ？ やっぱり……おかし

いんじゃないかなって、

萌 でもひなたちゃんだって一緒にこれ集めてきて、

ひなた うん、そうだよね、そうなんだけど。
萌 ……けど、おかしいと？

ひなた おかしいっていうか、実際問題、ずーっとこんなこと続けていくってのは、うん、
やっぱ無理だと思うんだよ。現にバレかけてるわけだし。

萌 うん……。

ひなた 分かる？

萌 ……うん。

ひなた だから！

ひなた、自分のかばんの下からゴミ袋を出してくる。

萌 え、嫌。

ひなた 捨てよう、ね。

萌 何で！ 持って帰るから。

ひなた 全部？ 無理だよ。

萌 ひなたちゃんの分はひなたちゃんが、

ひなた 私、持って帰らないよ。

萌 ……意地悪。

ひなた いっ……子供か！

萌 意地悪！

ひなた 分かった、分かった分かった。

萌 何が。

ひなた 一個選ぼう。

萌 一個？

ひなた ベスト・オブ・先輩のゴミ。

萌 ええ。

ひなた で、あと全部捨てよう。

萌 そんなの、

ひなた どれ？ どれが一番いい？

萌 ……一個だけって。

萌、机の上を見渡す。

ひなた 萌的に貴重なやつとかあるでしょ。

萌 一応、このへんが、密着度高いゾーン、だけど。

ひなた さっきの絆創膏とかね。これ何？

萌 イヤホンの耳当たるとこの、
ひなた えっ、うわ、無いと困るやつじゃん。
萌 だって先輩、別に頑張って探してなかった。安物だったしって。
ひなた これはさ、言おうよ。
萌 ……今更？
ひなた ……言えないけど。

萌、目に付いたものいくつかに手を伸ばすが、決めきれず迷う。

萌 決められない。
ひなた 選ばなかったらゼロ個だよ。ゼロ個と一個どっちがいい？
萌 じゃあ、ひなたちゃんは？
ひなた 私？
萌 どれか一つ。
ひなた いや私はそんな、
萌 ほら、ひなたちゃんも決められない！
ひなた 決められないとかじゃなくてさあ。
萌 ひなたちゃんが選ばないと私も選ばない。
ひなた ……だから、いらないんだけど。

ひなた、机の上からうちわを手取る。

ひなた じゃあこれ！ 私これにするから。ね。
萌 ……何で選んじやうかな。
ひなた はっ？
萌 私も選ばなきゃいけない。
ひなた 選ばなきゃいけないんだってば。

ひなた、机の上のものを一つ手に取る。シャーペンのグリップ部が剥がれたもの。

ひなた 萌、これにしたら。
萌 何で。
ひなた 何でってことはないけど。
萌 ……そうしようかな。

間。

ひなた あの時、持ってたやつだね。
萌 うん。あの時。あの時、初めてひなたちゃんに、

照明変化（回想）。ひなた、萌に歩み寄る。

ひなた 岸本さん。

萌 あ、

ひなた 先に帰ったと思ってた。あ、あっちにみんないるけどさ、一緒に帰る？

萌 いい！

ひなた ……そう。何持ってたの？

萌 何でもない。

ひなた えー、気になるじゃん。

ひなた、握りしめた萌の手をこじあげようとする。萌、ひなたに触れられないよう慌てて手を引っ込めるが、勢い余って握っていたものを落としてしまう。慌てて拾うひなた。

ひなた あ、ごめん。……何だこれ。

萌 返して。

ひなた 何これ？

萌 いいから、

ひなた あ、これあれか、シャーペンとかボールペンとかの、持つとこのプニプニ。

萌 ……いいから返して。

ひなた 取れちゃったの？ つけたげようか。って出来るか分かんないけど

萌 私のじゃないから。

ひなた え？

萌 ああもう、

ひなた じゃあ誰の？

萌 浅井さんには関係ない。

ひなた 別にいいじゃん、

萌 しつこい。

ひなた ……ごめん。

萌 返して。

ひなた、萌が差し出した手のひらにシャーペンのグリップ部を落とす。

ひなた もしかしてさー、先輩の？

萌 ……え……何で、って、じゃなくて、先輩って、誰先輩、

ひなた やっぱりー。

萌 何が！

ひなた え、名前言おうか？

萌 やめて！

ひなた へへ、かっこいいもんね、あの先輩。可愛いときもあるけど。綺麗なときもあるな。

萌 よく分かんないけど。

ひなた えー、てかそんなの大事に持ってるとか岸本さんマジ健気

萌 違う！ これはただ、

ひなた でもそれ絶対、あの先輩のシャーペンのやつでしょ。だってこないだ、めくれそうになって、これもうダメだーって先輩

萌 部屋に落ちてたから拾っただけ。

ひなた ふーん。

萌 ……言う？

ひなた ……先輩に？ そんな、

萌 言うに決まってる、ストーカーみたいな気持ち悪いやつがいるって。

ひなた 何、このくらい、

萌 私部活やめる。学校もやめる。

ひなた 待つて待つて、言わないって、

萌 もうほっといて！

ひなた いや分かんなくもないし。そういうの。

萌 ……嘘。

ひなた ほんと。てかあの先輩に憧れるのは普通に分かるし、その、素敵な人の触ったものなら、ゴミでもいいっていうか、ゴミでも素敵っていうか、そういうことでしょ？

萌 いい、分かんなくて。

ひなた 分かるよ！ ほらあれ、星屑！ みたいな。うん。

萌 ……はあ？ 星屑？

ひなた 星ってきれいじゃん、だから星屑もきれいなわけで。素敵な人の出したゴミならゴミでも

萌 星屑って、星の出したゴミのことじゃないけど。

ひなた えっ？

萌 細かい塵みたいに、空に星がいつぱいきらきらしてること。

ひなた ……まあ、私、文系だから。

萌 星屑、

ひなた ははっ、宇宙のことはちよつと。
萌 星屑！

萌、走り出す。机のまわりを巡り、机の上の物を手にとりながら、

萌 付箋！ おにぎり包んでたラップ！ 参考書についてた帯！ 靴下のタグ！ 先

輩が捨てたもの、全部、全部、星屑！

ひなた 萌！ 萌っ！ こっち来てこっち！

萌 ん、何。

ひなた じゃーん、先輩の紙コップ使用済！

萌 えっ、えっ、

ひなた しかもゴミ箱入れる前だから潰れてない！

萌、ひなたから紙コップを受け取る。宝物のように大事に持って、いろんな角度から眺めたり、匂いを嗅いだりする。

萌 すごい、ひなたちゃんすごい。

ひなた たまたまだよ。先輩が捨てるの忘れて帰ったから。

萌 コーヒーかな？ コーヒーだこれ？

ひなた 正解！

萌 わーっ！

無邪気に喜ぶ二人。ひなた、少し冷静になって、

ひなた ……こういうさ、ラッキーを待った方がいいと思うよ。

萌 えっ？

ひなた ゴミ箱漁るのはさ、やっぱまずいよ。

萌 でも、

ひなた 見つかったら何も言い訳できない

萌 でも今日も大漁だったし、

ひなた ねえ、

萌 あっ、そうそう、いいもの発見した。

萌、机の上からくしゃくしゃに丸まった紙を取る。

萌 先輩直筆。

ひなた ……進路希望調査。

萌 先輩の字！ あっあんまり開かないで、

ひなた 何で。

萌 だって先輩が、先輩の手で、こうやって丸めて、だからこれ先輩の手の形

ひなた 待って待って。でもさ、これ、外国の大学だよね。

萌 うん。

ひなた うん。…ってそれだけ？

萌 え…捨てるってことは、出す前に親とかと何かあったんだ。あーでも学校で捨てるから先生とかも。けどそれは新しく用紙もらえるか分かんないからとりあえず持ってきててっことも

ひなた いや、うん、でもさ。

萌 うん。

ひなた いけるかは別として、考えてはいるわけじゃん。

萌 そうみたい。

ひなた ……萌？

萌 ん？

ひなた 寂しくないの？

萌 確かに、先輩が海外行っちゃったら、もう先輩のモノ集められないけど、

ひなた いや、てか、会えなくなるよ？ 普通に卒業して日本の大学行くだけならまだ

萌 会うとか私、別に、どうでもいいから。

ひなた ……そうなの？

萌 今のうちにしっかり集めないと。

ひなた ……じゃあ、これどう？

スマートフォンを取り出すひなた。

萌 何これ。

ひなた ツイッター。先輩の。

萌 はあ。

ひなた こういふのは見ないんだね。

萌 え？

ひなた いや、…ほら、クラスの人達でバーベキューするんだってさ。夏休みのはじめに。

萌 げっ。

ひなた げって。

萌 うちのクラスじゃありえない。

ひなた 確かに仲いいよね。

萌 全員でー？

ひなた ……行こうよ、二人で。

萌 え。

ひなた 海だしさ。…いや、バーベキューって、ゴミいっぱい出そうじゃん？

顔を合わせるふたり。次の瞬間、ふたりとも屈みこむ。

ひなた また刺された。

萌 大丈夫？

ひなた 萌何でそんな刺されないの？ 何か塗ってきた？

萌 ううん。

ひなた えー、不公平。じゃあ蜂蜜かなんか塗れよ。

萌 え！？

ひなた てかもういいじゃん隠れなくて。

立ち上がる二人。

萌 蜂蜜、どこに売って、

ひなた 何本気にしてんの。

萌、ひなたの視線を追う。

萌 みんな帰っちゃった。

ひなた ごめん。

萌 ううん。

ひなた こういうのってゴミ持って帰るもんない。

萌 そりゃそうだ。

ひなた ……けどさ、新鮮だったよね、部活のときと雰囲気違って、先輩の。

萌 そう？

ひなた 好きな人とか、さっきいた中にいるのかな。

萌 さあ。

ひなた ……もうちょっと続くと続と思ったんだけどな、バーベキュー。

萌 焼きそばは最後だと思う。

ひなた だからごめんって。

萌 続いてたって、あんないっぱい人いたら

ひなた 逆にさ、だからスツと入ってたらバレないかと思って、
萌 入ってなかった。

ひなた それも私が行けって!?

萌 言い出したのひなたちゃんだし。

ひなた あーそう! そうだよ、全部私が悪いよ!

萌 ひなたちゃん! ひなたちゃん?

そっぽを向いて駆け出すひなた。舞台を一周し、途中で机の上からうちわを取って萌のところに戻ってくる。息を切らし、ほとんど屈みこむような姿勢になりながら、萌にうちわを差し出す。

ひなた これ。

萌 ……これ……、

ひなた あった、先輩たちがいたとこに、残ってた。

萌 ……うん。

ひなた いらない? いらないよね、てか先輩のか分かんないし、先輩もうちわ持ってた

けど、ここからじゃ見えないしこれじゃないかもしれないってかこれじゃないわ。

萌 あ、でも、

ひなた もー、ごめん、役に立たなくて!

萌 ……ありがとう。

照明戻る。

ひなた 私、これ、萌のコレクションの中に入れてもらえてないかと思ってたよ。どうせ

先輩のじゃないって、萌だっけそう

萌 けど、王子様みたいだったから!

ひなた へっ!?

萌 ひなたちゃんがそれ渡してくれたとき。何か、王子様みたいだった。

ひなた お、王子様?

萌 うん。ほらよくあるやつ。すっごく危ないところに咲いてる、貴重な薔薇を取っ

てきてくれた、王子様。

ひなた よくある?

萌 ごめん、よくあるかは分かんないけど。

ひなた 薔薇? これが? じゃあ萌はお姫様?

萌 それは……、

ひなた 否定しないのかよ。

二人、顔を見合わせて少し笑う。

ひなた まあ、どれか一つ選べって言われたら、これかな。

萌 うん。

ひなた 誰かに見られてもどうってことないじゃん。夏にそのへんで配ってるやつでしょ。

萌 ……確かに。

ひなた それに、このときはすごい虫刺されて最悪だったけど、でも……

ひなた、うちわを自分の鞆のところに置きに行きながら、さりげない風に、

ひなた 楽しかったよね？

萌 え？

ひなた 楽しくなかった？

萌 ううん……え、楽しかった、けど。

ひなた

萌 だって、さっきから、私がひなたちゃん分ちちゃんと分けて渡すって言っても、
いらないうっていうし、やっぱりひなたちゃんは、嫌々付き合ってくれてただけなん
だって。

ひなた 嫌々、とかじゃないけどね……。お姫様か。

ひなた、机の上のものをゴミ袋に入れ始める。

萌 えっ、あつ、

ひなた 言ったでしょ、捨てるって。

萌 うん……。

ひなた 確かにあるわー、お姫様感。だからさー、何かさー、萌が嬉しそうなのを見ると、
ついねー。でもゴミだ！

勢いよくゴミを袋に入れるひなた。

ひなた 私ら……萌と私さ、もつとちゃんとできると思う。

萌 ちゃんと？

ひなた その、先輩のゴミ集めるんじゃないくてさ、普通に遊んだり、普通の話したりさ。

萌 ……普通の、

ひなた 楽しいと思うよ。だって私、ここにあるの全部先輩のゴミなのに、見たら何か、

萌とこんなことしたとか、話したとか、そんなことばっか思い出すもん。だから、

萌 (大声で) 私も!

ひなた うわっ。

萌 ほんとに? ひなたちゃん、ほんとに?

ひなた ……うん、

萌 私もそう! ここんとこずっと、先輩のモノ集めてるはずなのに、何か、ほんとにそれが欲しいのか、ひなたちゃんと集めるからいいのか、分かんなくなってた。

ひなた じゃあ、いいじゃん。

萌 いいって?

ひなた もう……先輩のゴミ集めるの、卒業してもいいじゃん。

萌 けど、そしたらひなたちゃんと何したら、

ひなた だから、普通のこと!

萌 ……ううううん。

ひなた え、分かんない? 私の言ってること。

萌 ほんとに全部捨てる?

ひなた ……萌、私といるとき、先輩のゴミのことしか話さないよね。

萌 ……そう?

ひなた 先輩なんかさ、萌のしてたこと知ったら絶対引くよ。そーゆーの、ほんと駄目ってタイプだから。萌は、話しかけもしないでゴミ漁るばっかで、知らないと思うけど。

萌 あっ。

ひなた 何!

萌 分別とか、いいのかな?

ひなた てか、先輩だけじゃない! みんな……萌がこんなことしてたって、ああそんならだって受け入れてくれる人なんて、いないよ。

ひなた、袋にゴミを入れ終える。

ひなた 私以外。

間。

萌 ……ひなたちゃん。

ひなた 何。

間。

ひなた ……何っ!?

萌 分かった。卒業する。

ひなた おっ。

萌 うん、捨てよう。先輩のモノ、集めるのやめる。

ひなた 偉いじゃん。

萌 ふふーん。

ひなた ……え、どうしたの。

萌 だってそれ、捨てちゃっても私には、

萌、サブバッグを持ってくる。

ひなた え？

萌 これがあるから。

ひなた 何、あつ、えつ、

ひなた、サブバッグの上から中身の感触を確かめる。

ひなた まだ持ってたんだ先輩のゴミ？

萌 違う違う！ 今、卒業するって言ったし。

ひなた ……じゃあ何、これ。

萌 開けてみて。

ひなた ええ、何。

萌 いいから。

ひなた やだよ、何か分かんないのに。

萌 開けたら分かる。

ひなた ヒント。

萌 ……黙ってようか迷ったけど、

ひなた はい？

萌 今ひなたちゃんが言ってくれたの聞いて、見せようって思えた。

ひなた ……ヒントって意味知ってる？

萌 もう、開けてって。

ひなた 何だよー。

ひなた、サブバッグを開ける。

ひなた ん？ やっぱゴミじゃん。

萌 よく見て。

ひなた ……え？ あれ？ 嘘、何これ、

萌 分かった？

ひなた 嘘、待って、え、

ひなた、サブバッグの中をかきまわす。やがてもどかしくなり、中身を机の上にぶちまける。出てきたのは先ほどと同じようなゴミの山。

ひなた これって、

萌 ちょっと前から、こっそり集めてた。

ひなた ……冗談だよね？

萌 冗談？

ひなた、中央の机に背を向ける。

ひなた あー、そうだ、これは夢だ、

萌 夢じゃない、

ひなた ないない、ありえない、萌が、私のゴミ集めてるなんて、

萌 正解！

ひなた ……はあ？

萌 やっぱり見たら分かるんだ。

ひなた あー、そういうこと？ 自分のゴミ見分けられるかテスト？

萌 ううん！ これは全部、私が本気で集めた、ひなたちゃんの、

ひなた 何でよっ！

間。

萌 ごめん……急すぎた、もっと、

ひなた いや急とかの問題じゃないし。

萌 でもやっぱりワンクッション置いてから見せたほうが

ひなた 足りないわワンクッションじゃ。

萌 何クッションいる？

ひなた 何クッション……じゃなくて！ 何がどうなってこうなるわけ？ 頭ん中どうな

ってんの？ 先輩は？ もういいの先輩のゴミは！？

萌 ひなたちゃんが捨てるって、

ひなた あー、そうだ、そうなんだけど。

萌 けど、うん、いい。卒業できる、ひなたちゃんのおかげで、

ひなた いやできてないじゃん、相手変えればいいってもんじゃないでしょ。てか何で私？

ゴミなら誰のでもいいわけ？

萌 そんなわけない！

大声を出す萌。

ひなた はあ？ 逆ギレ？

萌 逆？

ひなた 逆でしょう！

萌 ひなたちゃん、キレてる？

ひなた ……うんキレてる！

萌 ごめん、違う、誰のでもよくなんかない。

ひなた そこじや

萌 ひなたちゃんのだから欲しい。

ひなた ……何で。

萌 ひなたちゃんは、今までの誰とも違うから。

ひなた 今まで？

萌 今まで私が、モノ集めてきた人たちの誰とも。

ひなた ちよつと待って、まさか先輩の前にも、人のゴミ集めてたわけ？

萌 うん。小学校の頃から。先生とか、同級生とか、

ひなた マジで。

萌 先生っていうのは、

ひなた あー別にいいよ話さなくて。萌が昔っからそうだったって分かっただけで十分。

萌 ……うん。

ひなた (ボソツと) 悪い意味で。

萌 みんな、何ていうか、

ひなた まだ続ける？

萌 星みたいな人だった。

ひなた 星？

萌 ひなたちゃん言った、私が集めてるのは星屑だって。

ひなた ……ああ。

萌 すごいって思った。私、自分じゃうまく言葉に出来なかつたけど、その通りだ！

つて。そう、星。先輩もそうだけど、何か、光ってるみたいなの、それでいてすごく遠くにいるみたいなの、そういう人に会ったとき、その人のモノ集めてきた。

ひなた けど、星屑って星のゴミじゃないんだよね。

萌 もうその意味でいい！

ひなた いやよくないでしょ、

萌 いい。だって、私ずっと、自分で、自分はおかしいのかもしれないって、

ひなた あ、自覚あったんだ。

萌 ……こんなことしちゃいけないんじゃないかって、でもどうしてもやめられなくて…でも、ひなたちゃんが初めて、それを綺麗な言葉で呼んでくれた。

間。

萌 だから、ひなたちゃんはただの星じゃない、特別な星。私が、ほんとに、星屑を集めるべき星。だからこれから私、ひなたちゃんの星屑だけ集める。

ひなた ……先輩は？

萌 先輩も星。

萌、ゴミ袋に近づく。踏ん切りをつけるように、その口を縛る。

萌 でも、ひなたちゃんが言うように、先輩には、ううん、他の誰にも絶対、こんなことしてるなんて言えない。でもひなたちゃんなら。

ひなた ……なら、いいって？

萌 だって、

ひなた 私、こんなことされてもニコニコして、いいよいいよ好きだけ私のゴミ持っていきな、とか言いそう？

萌 え、

ひなた 勝手に私を、そっち側に入れなくてよ。私はまともだもん。

萌 でも、

ひなた 私が喜ぶとでも思った？ 信じらんない！

萌 ひなたちゃん、

ひなた 呼ぶなっ！ ……よかったよ先輩にバレなくて。こんな…自分がやられたらこんな感じなんだ…キツイわ。ありえない。ほんと、気持ち悪い。……こんな異常だよ。

間。ひなた、突然駆けて行って教室の外の様子を伺い、あたふたと戻ってくる。

ひなた 隠そう、ねえ、

萌 ……入ってこないよ。

ひなた でもこのクラスの

萌 見られたらゴミ拾いしたって言えばいい。

ひなた あーもうっ！

ひなた、出口を気にしながら、なんとか机の上のゴミを隠そうとする。
間。

警戒していた生徒か教師は通り過ぎたらしく、やや気まずそうなひなた。

ひなた とにかくこれ、とつとと

萌 これが、一番大物。

萌、中央の机の上のものをひとつひとつ手に取り、うっとり眺めながら、

萌 地域清掃のときひなたちゃんがしてた軍手。インク切れのボールペン、切れたゴミ、ム、

ひなた やめてくれる？

萌 この切れ端は何の袋のかまだ特定できてないんだけど。袋のほうは家で捨てたのかな。

ひなた 黙って。

萌 割り箸。そう、割り箸！ ひなたちゃん折って捨てるから手に刺さりそうになる。

拾うほうの身にもなつてほしい。

ひなた はーあ！？

萌 あ、ごめん。

ひなた あのさあ、

萌 水、水、ほうじ茶、水、ほうじ茶、

ひなた ひっ。

萌 ……え、何？

ひなた そういうペットボトルとかってさ……どうするの？

萌 どうするって？

ひなた だから……口、つけてるわけじゃん。

萌 あはは。

ひなた え、やだ、何、

萌 どうもしない。

ひなた 嘘だ！

萌 じゃあ、何してほしい？

ひなた やめて、ちゃんと答えてよ。

萌 ……ほんとに何もしいって。集めるだけ。……のど飴の袋、ミント、蜂蜜、ミント、ミント、
ひなた ちよっと、
萌 梅、蜂蜜、
ひなた ねえってば！

ひなた、萌の肩を掴もうとするが、萌はするつとよける。

ひなた ……萌さ、

萌 そんなに嫌？

ひなた ……嫌だよ！

萌 先輩のモノ一緒に集めてたのに？

ひなた それはさ、

萌 私に付き合ってくれてただけにしても。自分が同じことされるのは嫌？

ひなた ……それじゃあ何か、私がすごい自分勝手みたいじゃん。

萌 でも、ニュースとかと一緒にだ。

ひなた ニュースう？

萌 他人がどんな目に遭ってようが痛くもかゆくもないけど、

ひなた 違う！

萌 違う？

ひなた ……違うじゃん、私は、先輩のゴミ集めるのもやめるべきだって言ったよ。自分が被害に遭わなきゃいいなんて思っただけ。てかそもそも萌のためだし。

萌 私のため？

ひなた そう。そうだよ。だってさ、こんなことしてて世の中やってけないよ。

萌 世の中。

ひなた だって…あ、そう、彼氏できたら彼氏のゴミ集めんの？ 即バレるよ。

萌 別にそんなの、

ひなた 社会人になってさ！ 会社とかでいいなって思う人のゴミ集めんの？ 下手したら

警察呼ばれるって、

萌 どうでもいい、そんなの。

ひなた でも、

萌 ひなたちゃんがいれば。

ひなた ……何それ。

萌 ひなたちゃんさえ分かってくればそれでいい。

ひなた んなこと言ったってさ。

萌 けど、ひなたちゃん言った。みんな受け入れてくれない、ひなたちゃん以外って。

間。

萌 それって、

ひなた 撤回するわ。

萌 ……撤回

ひなた 違うし。それ、そういう意味じゃないし。

萌 ならどういう

ひなた どういうもこういうも！ とにかく、こういうことじゃないの！

萌 でも私、ひなたちゃんがそう言ってくれたから、これ全部見せて、

ひなた じゃあ何？ ほっといたらずっと黙って集めてたわけ？ 怖い。

萌 ……ひなたちゃんなら、分かってくれるって、

ひなた 何で私に分かんないけないの。

萌 え。

ひなた 何で私なのよ。みんな引くに決まってるじゃんこんなさ。何で私だけが、萌の、

こんな暗ーい、意味不明な、頭おかしい部分を全部知って、全部受け入れなきゃい

けないの？ 理解しなきゃいけないの？ 私はただ、普通に、普通に、萌と……。

萌 ……ごめん。

ひなた 何のごめんよ、それ。

萌 ……もう、集めないから。ひなたちゃんのモノ。

ひなた 当たり前だ。

萌 ここにあるだけ、大事にして

ひなた は？ これだって全部捨てるよ。

萌 ……え。

ひなた 何言ってるの？

萌 駄目！ それは駄目！

萌、机に突っ伏すようにしてゴミを守る。

萌 もうこれ以上いらないから、

ひなた やめてよ……

萌 ほんとに、一生の宝物にする、もう絶対にしないからここにある分だけ、

ひなた 私のゴミから離れてっ！

怒っていたはずのひなたの声が、ほとんど泣き声に近くなる。

ひなた　ほんとにやめて……嫌だよ、汚いよ、何でそんなこと出来るの？

萌　けど、星屑だ

ひなた　ゴミだよっ！　星屑なんかじゃない、ただのゴミ、ここにあるの全部、私が、出した自分でも触りたくないくらい、汚い汚いゴミなんだよっ！

萌　……でも、お願い。ほんとに、これだけで……ひなたちゃんにも今後一切、

ひなた　一切、何？

萌　……一切……。

ひなた　私にも今後一切、話しかけない？　会わない？

萌　その、

ひなた　もう一緒に、いれなくていい？　今、言おうとしたのって、何かそういう感じのことだよね。

萌　……私はまだ、

ひなた　本気で言ってるの！？　私も先輩とおんなじ？

萌　え？

ひなた　……萌、先輩その人には、あんま興味なかったじゃん。ゴミばっかで。

萌　そんなことない！

ひなた　ある！　見てたら分かんだよそれくらい。だから私も……おんなじか。

萌　ひなたちゃんは……違う。先輩とは違う。他の人とは違う。

間。

ひなた　なら何で、私のゴミ集めたの？

萌　……他に、どうしたらいいか、分からないから。

ひなた　……捨てたらいいよ。

萌　え。

ひなた　捨てて、萌が自分で。言ったじゃん私、自分でも触りたくないからそんなゴミ。

萌　そんなの

ひなた　出来ないなら、私、萌と絶交する。

萌　絶

ひなた　小学生レベルかよって思った！？

萌　別に、

ひなた　本気だからね。

萌　捨てるって、

ひなた、先輩のゴミを入れたゴミ袋を指さす。

ひなた それに入れるに決まってんじゃんまだ余裕あるでしょ！ ……迷うの？

萌、中央の机から一つゴミを取り、袋に入れる。袋に入ったあとのゴミをじっと見ている。机に視線を戻す。もう一つ。また一つ。

ひなた 全部！

萌 分かってる。

ひなた おーそーい！ ……びくびくすんなよ鬱陶しい。

のろのろとゴミを捨てている萌の動きを目で追うひなた。怒っていたのがだんだん、困惑した表情に変わる。

ひなた 私、自分だけは違うって思ってた。

萌 ……何が。

ひなた 手、動かして。

萌 あ、うん。

ひなた 自分だけは、萌のこと受け止められるって……なのにいざ、こうやって……私のゴミ、目の前に出されたら、私……、

萌、落ち着かない様子になる。

萌 ごめん、その……どうしても、さっさと捨てられない。怒らないで

ひなた 合ってる？

萌 何が。

ひなた 今、私の上のこと。

萌 ……ええと、

ひなた 萌のこと否定して、脅して、大事にしているもの捨てさせて。ほんと私は萌は萌だって、どんなでも萌だって、言うべきなの？ でも無理……だって気持ち悪いんだもん……

ひなた、萌に背を向ける。

萌 ひなたちゃん？

ひなた ごめん、萌。

萌 え。

ひなた ここでビビらなかつたら、気持ち悪いって思わなかつたら、私さ……、

萌 うん。

作業の手を止める萌。

ひなた 萌の、大事な人になれた？

萌、ゴミを一つポケットに入れる。ひなた、振り向く。

ひなた ……萌？

萌、猛スピードで残りのゴミをゴミ袋に入れる。

ひなた 入れたよね今？ 一個しまったよね？

萌 ごめん、ごめんなさい、

ひなた 人が真面目に話してんのに！ クズ！

萌 クズ！？

ひなた 出して！

萌、ポケットに手を入れて首を横に振る。が、ひなたが掴みかかろうとすると、ポケットトからゴミを取り出す。

萌 分かった、分かった、捨てるから。

萌、渋々最後の一個をゴミ袋に入れる。ひなた、その様子をじっと見ている。

ひなた やっぱり。

萌 え？

ひなた、両手でゴミ袋を持って振る。

萌 あーっ！ やめて！ 混ぜる！ あーっ！

ひなた、ゴミ袋の口を縛りながら、

ひなた なら止めたらいいじゃん。

萌 やめてって言うてる！

ひなた　口でキャンキャン言うんじゃないくて、私に飛びついてでも止めたらいい。

萌　そんな無理矢理、

ひなた　出来ないよね。萌、ずっとそうだもん。

萌　……何が？

ひなた　触るのも、触られるのも、出来ないもんね。

萌　ええ、

ひなた　気付いてないって思ってた？　ずっとそうじゃん。人が触ったもの……口をつけ
たもの、汗の染みついたもの……平気で、喜んで集めるくせに！

ひなた、萌に手をのばす。

萌　……何？

ひなた　触れよ、私に。私のゴミじゃなくて、私に。

萌、微動だにせず、ひなたを見つめる。

ひなた　私、星じゃないし。星みたいに遠くにいないし。ほら、ほらっ！

萌、動かない。ひなた、自分から萌に近づく。萌、逃げる。

ひなた　萌！

萌　無理……。

ひなた　……嘘でしょ。

萌　無理なもんは無理！

ひなた　何だよ、もう。

萌　そんなじゃない。私、ひなたちゃんに触りたくなんかない！

間。

ひなた　へえ、そう。

萌　私は、ただ、

ひなた　もういいよ。

萌　手のひらに収まる、持ち歩けるひなたちゃん！

ひなた　は？

萌　ずっと黙ってポケットに、かばんにいて、いつでも取り出して握りしめることが
できるひなたちゃん……私のことで何か思ったり、私のせいで嫌な思いをしたりし

ない……

萌、ひなたを指さす。

萌　　そう、そんな顔！　そんな顔のできる顔なんて持ってないひなたちゃんが、いいだから集めた、頑張って集めたんだっ！

ひなた、そっとゴミ袋のほうを見る。

ひなた　……でも、私はここにいます。

間。

ひなた　ここにいるのに。

萌　　……それが怖い。私に向かってそこにいるひなたちゃんは、怖い。

しばらく、黙ったまま動かない二人。

ひなた、突然上履きを脱いで萌に投げつける。

萌　　うわっ、

ひなた、靴下、ブレザー（またはカーディガン等）、リボン（またはネクタイ）、髪留め（あれば）など、身につけている物を次々と萌に向かって投げながら、

ひなた　じゃあいいよ、あげる。私じゃなくて、物がいいんですよ。ごめん全部捨てさせてちゃって！　代わりにあげる……全部あげる。

萌　　待って、ちよっと、

萌、飛んでくるものから身を守りながら、なんとかひなたに近づこうとする。

ひなた、ブラウスとスカートだけになり、一瞬躊躇うがブラウスのボタンに手をかける。動揺する萌。

ひなた　全部、

萌　　駄目！

萌、ひなたに駆け寄り、ひなたの手を掴んで動きを止める。

ひなた あっ。

萌 あ……。

萌、ひなたの手を放し、後ずさる。ひなた、その様子を見ているが、やがて踵を返し、ゴミ袋を持って出て行く。

萌 ひなたちゃん、

ひなた、戻ってこない。

萌 ……ひなたちゃん。

萌、ひなたが投げつけた物を拾い、一つ一つその物の名前を言いながら机の上に置く。細かい角度などにもこだわりのある様子で、きっちり並べていく。

萌 カーデイガン（ベスト／セーター）、リボン（ネクタイ）、上履き右、ブレザー、靴下左、上履き左、靴下右、（順番、内容は状況に応じて変更）

完成すると椅子に座り、自分の両手を持ち上げてまじまじと見る。そして、両手も並んだ物の中に加えるように、手のひらを上にしてゆっくりと机の上に置く。

萌 軍手。紙コップ。ウェットティッシュ。ペットボトル。糸くず。切れたゴム。ど飴の袋。折れたシャーペン。のび。牛乳プリンの容器。コーヒー牛乳プリンの容器。割り箸。レシート。インク切れのボールペン。期限切れのポイントカード。……ひなたちゃん、その人。

ひなた、戻ってくる。

ひなた 寒いわ、外。

萌 どうなる？

ひなた ……何が。

萌 私の手。

ひなた どうにもならないよ、何、私のこと何だと思ってるの、ウルシ？

萌 人間。

ひなた ……真面目に答えられてもさ。

萌 ひなたちゃんに触った。

ひなた そうだね。

萌 皮膚に。

ひなた 言い方。

萌 ひなたちゃんの皮膚の向こうには、血が流れてる。

ひなた そりゃそうだ。

萌 血、血管。筋肉、骨、内臓、

ひなた ねえ、

萌 心臓、脳。

ひなた ……他にもあるけどね。

萌 脂肪？

ひなた 喧嘩売ってんの？

萌 別に。

ひなた そういうんじゃないってさ。

萌 何。

ひなた 何って言われたら困るけど……やる気、とか、イライラ、とか。気持ち、心。

萌 脳だ。

ひなた 私文系だからさ。

萌 ……どっちみち、皮膚より向こうは、触れないものばかり。

ひなた だから？ 行き止まりだから、怖いのか？

間。

萌 ううん。多分、行き止まりじゃないから。

ひなた 行き止まりじゃない？

萌 うん。もつと先がある。触って確かめられないものがたくさんある……気がする。

他人の中には……ひなたちゃんの中には。

ひなた ……そう、だね。

萌 今日だって、ほんと、どうしたらいいか分かんなかった。ひなたちゃんの中の、そういう、触って確かめられないものが、バツツて騒いで、怒って、ひなたちゃんには苦しそうで、それは私のせい……私、無理。無理。今、そこにいるひなたちゃんに対して、何も、何もちゃんと出来ない。なのに触っちゃって、皮膚に、表面に触っちゃって、もう後がない、これから、どう……どうなるの？

間。ひなた、ぶるっと身震いする。

萌 寒い？

ひなた ……いいよ、平気。

萌 裸足だし。

ひなた、しばらく引っ込みがつかずに萌を睨みつけているが、やがて黙って中央の机から靴下を取り、履く。

ひなた さっき先生に見つかってき、何だその格好って言われた。怒る前に心配しろよな
って感じだよな、どっちかって言うと。

ひなた、話しながら中央の机の上のものを一つずつ身につけていく。最後にリボン（ネクタイ）を手に取ろうとしたとき、萌が反対側の端を掴む。

ひなた 何。

萌 一個だけ。

ひなた まだそんなこと言ってんの。

ひなた、リボン（ネクタイ）を引っ張るが、萌も離さない。

ひなた じゃあ、萌のくれる？

萌 え？

ひなた いや同じのだしさ。萌のくれるなら、別に何も問題ないけど。

萌 あ……そっか。

萌、自分のリボン（ネクタイ）を外そうとする。

ひなた いや、やっぱり駄目。

萌 ええーっ。

ひなた 放して。

萌、ひなたのリボン（ネクタイ）から手を離す。ひなた、リボン（ネクタイ）をつける。

ひなた だって、何かずるいよ、それは。

萌 ……そうかなあ。

ひなた 私もずるい。これだけ交換してき、萌に納得してもらおうってのは。

萌 え、いい。いいから、

ひなた 必死だね。

萌 必死にもなる。だってもう、全部なくなっちゃったんだから。
ひなた そう？

間。

ひなた ほんとに、そう思う？

萌 ……ひなたちゃんにはひなたちゃんだ、どんなでもひなたちゃんだ。私のこと気持ち悪いって思っても、私のこと分かってくれなくても。

間。

萌 って、私も、ほんとはそう言うべきなの？

ひなた ……言わなくていい。私も言わない。

萌 そしたら

ひなた そしたら、どうなるんだろうね、これから。

ひなた、うちわを背に隠して、萌に近づく。

ひなた そこ、立って。

萌 え、

ひなた いいから。

ひざまずくひなた。

萌 えっ、何、えっ。

ひなた どうぞ、薔薇です。

ひなた、うちわを差し出す。おそろおそろ、手を伸ばす萌。暗転。